

1 自己評価及び外部評価票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770600173		
法人名	医療法人 陶山医院		
事業所名	有情の里		
所在地	香川県さぬき市大川町田面78-1		
自己評価作成日	令和3年9月25日	評価結果市町受理日	令和4年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アストリーム・アライアンス		
所在地	香川県さぬき市津田町鶴羽2360-111		
訪問調査日	令和3年12月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日当たりが良く明るいアットホームな雰囲気がある。玄関や中庭に花を植えていてフロアにも出来る限り季節の花を飾り春夏秋冬を感じられるようにしている。交通の便も良くバス停が正面にある。夜は静かで虫の声が聞こえる。一日の流れは穏やかで、入所者様方には自由にしていただき、各々の生活リズムを尊重している。同敷地内には医院があり、医療との連携は取れている。日々の行事や様々な業務も担当を決め、全職員が責任を持って取り組んでいる。里だより新聞を定期的に作成して御家族に状況をお知らせしている。何か問題や不明な点があればミーティングで意見交換をして解決・対応している。施設犬を飼っており、誰もが癒され、来所される御家族も楽しみにされている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

街道沿いの静かな町中の事業所である。同敷地内には医院や他の事業所があり、緊急時の対応等も安心できる。理念の『この里で自分らしく輝いて、笑顔あふれる住まいを目指して』を実現すべく運営者・管理者・職員が一丸となって実践にいそしんでいる。利用者の高齢化に伴い車いす使用の方もおられるが、理学療法士が個々人の状況に合わせた訓練を行うなど細かな支援がなされており、その時の利用者の心身の状態に合わせた支援の体制が組めようになっている。利用者は近隣の住民が多く、馴染みの環境、馴染みの人に囲まれ生活をする、地域の高齢者の住まいが目指された事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない		

自己評価および外部評価票

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を各所に掲げ、常に目に触れる様にして共有している。又、ミーティングで理念に対する具体的なテーマを決めて、実践し、次回の見直しに反映するようにしている	理念は事業所のいたるところに掲示されており、全員参加のミーティングにて職員が理念に基づき、具体的なテーマを決め実行に移されている。テーマは見直しが行われ、達成の度合いも皆で評価されている	
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	去年よりの新型コロナウイルスの感染への対策として、不要な接触を避けている為、地域の方々との交流については、積極的には行っていない。時期を見定めての判断となる	散歩では、近所の顔見知りや商店を訪問していたが、コロナ禍では外出や地域交流も縮小され、少なくなっている	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為、積極的には行っていない		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いで行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居の状況、入居者の日々の様子や行事等出来るだけ伝えるようにしている。又、事故報告や取組状況も報告し、そこで頂いた貴重な意見をサービス向上に向けて生かせるように努力している	運営推進会議は書面を含め定期的に開催されている。参加者の顔ぶれも多彩である。事業所内の事故報告やそれに対する敏速な対応や取り組み状況の報告もあり、活発な話し合いができるよう努められている	法人の医院や事業所などが地域の貴重な資源となっている。地域の特性を考慮して、医院や事業所が更に地域で果たす役割、貢献できること等地域の方々と話し合う機会となることに期待します
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類の提出や事業所の運営に関する質問、運営推進会議の議題の相談等させていただいている。又、事業所の報告を行い市町村の取り組みに対し協力体制を整えている	事業所からは、書類の提出や日頃の相談などの機会に積極的な関係作りが行われている。また、行政からも運営推進会議の参加や同業者のネットワークづくりの支援も行われており、協力関係が築かれている	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を定期的に実施し、必要な書類や事例等で理解の周知に努めている。玄関の施錠についてはコロナ禍の為、積極的には行っていない	身体拘束廃止委員会を定期的に行い、研修も実施されている。玄関にはチャイムやモニター等の設置はない。コロナ感染対策のため、一部施錠にて管理されている	
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待についての定義や職員としての心得を勉強会を通じて理解を深め虐待防止に努めている。新職員が入った際に行ったり、職員同士で言動等についても注意を払っている		

8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて勉強会を実施し、理解を深める取り組みを行っている		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の書面を見ながら随時説明しているが、一度自宅に持ち帰りじっくり目を通していただくようにしている。不明な点があれば、いつでも尋ねてもらえるよう声かけを行っている		
10 (6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情受付箱(意見箱)を設置している。又、面会時にも出来るだけご意見を伺えるよう声かけを行っている。頂いたご意見や苦情は全体に周知し話し合いを持つようにしている。結果については御家族に伝えるようにしている	家族等に月1回は面会の機会が持てるよう依頼されている。請求書に加え、近況報告の手紙や有情だよりが渡されている。 面会時等に聞いた意見や要望は、内容を全員で話し合い検討して、家族等にきちんとフィードバックされている	
11 (7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングは代表者や管理者も出席し、運営に関する意見や提案を直接話す事が出来る様にして、意見交換を行っている。その結果によって体制や業務の変更を行っている	全員参加のミーティング時に直接運営に関する意見や提案をして、意見交換をしている。体制や業務変更に反映されている。職員が個別に話し合う機会も設け、働きやすい環境整備に努めている	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者や管理者は、職員と個別に話し合える機会を設けており、勤務への希望・給与・業務内容等について話し合う事が出来る		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者や職員からの話に耳を傾け、個人の力量の把握に努めている。各自の経験や習熟度等、段階に応じた研修の参加を促している		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在コロナ禍の為、定期的には行っていないが、電話等での情報交換は行っている		

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に必要に応じて職員が自宅訪問したり、ご本人に施設見学に来ていただいたりしている。ご本人の要望や不安に耳を傾けて、安心して入所出来るように取り組んでいる		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話をご本人が同席しない場でゆっくりと聞く時間を設けるようにしている。ご家族の思いを受け止め、極力要望に応えられるよう努めている		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族との面談やケアマネージャーからの情報収集を行い、支援の見極めに努めている		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入所者を人生の先輩として尊敬し、日々の暮らしの中で風習や料理の作り方等を教わったりして、隔たりなく接している		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の為、今までとは違う支援になっている。外出・外泊等は御遠慮していただいているが、必要に応じ、連絡を取り合い、信頼できる関係は築けている		
20 (8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在コロナ禍の為、積極的には行っていない。今後の状況に応じての対応になる	地元との結びつきが強く、知人の面会やデイサービスの友人に会いに出かけたりしている。移動スーパー や馴染みの理容・買い物に出かけるなどの支援も行われている	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話好きな方、聞き上手な方など入所者同士の関係を把握した上で、食堂の席を決めたり、一人ぼっちにならないように配慮している。入所者同士が声を掛け合ってレクリエーションや洗濯物たたみに参加されている		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じて相談に乗り、家族・本人の支援に努めている。退所後も会えば言葉を交わし、相談しやすい環境作りに努めている		

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの入所者とのかかる時間を、出来るだけ多く持つようしている。自身の思いを伝えにくい方に対しては、表情や行動・何気なく発する言葉から思いをくみ取るように日々の観察や声かけを行っている	一人ひとりの利用者と向き合う時間を大切にされている。本人の言葉・表情・行動などから思いを汲み取り希望や意向の把握に努められている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の本人との面談、入所時ご家族に話を伺う等により、日常の生活状況や生活歴を把握している。入所後も、随時新しい情報を追加し、より正確な情報の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや日々の記録、本人の発した言葉等も伝え、心身の状況を把握するとともに、チームカンファレンスや生活記録を通して、総合的に把握するようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当する職員を決めて、ケアプラン実施状況の評価やモニタリングを行っている。又、面会時にご家族に意見を聞いたり、電話で意向を伺う等し、ミーティングで職員が意見を出し合い、介護計画に反映するようにしている	ミーティング時に担当職員が計画の実施状況を評価し、モニタリングを行う。計画作成者はミーティング時の意見やアイデア・個別記録・家族の意見を参考に計画を作成している。適宜計画の変更がなされている	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	他の施設のものを参考にしたり、職員の意見をもとに記入しやすく見やすい記録に改善することで、情報の共有がしやすくなり、ケアプランの実施状況と結果・モニタリング・介護計画の見直しへの流れが解かりやすいようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて受診等の送迎・付き添い・買い物等の外出支援を行っている。日々の大まかな予定や計画にとらわれる事なく、状況に応じて柔軟に対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在コロナ禍の為、出来ていないが、それまでは運営推進会議等を利用して、地域行事への参加の希望等を伝え、状況が整えば実施している。又、普段から老人会・婦人会・民生委員・消防等との良好な関係作りに努めている		

30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望があれば尊重し、納得が得られたかかりつけ医と連携している。又、受診時には薬手帳やその他必要な記録を持参して、適切な医療が受けられるよう努めている	本人や家族の意向を尊重し、かかりつけ医が決められている。協力医療機関の医師から月2回の往診を受け、緊急時の対応も出来ている。歯科も協力医療機関からの往診を受けている。他機関へは家族付添で受診し、情報共有の連携がなされている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝え相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に看護師と情報交換を行い、小さな変化も伝えるようにしている。隣接の医院、通所介護施設の看護職員とも常に連携の体制をとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の担当スタッフ等と連携をとり、病状説明や退院に向けてのカンファレンスに参加するようしている。コロナ禍の為、入院中の面会は出来ないが、状態の把握に努めている。又、家族とも連絡を取り退院後の生活等の相談をし、安心して治療を受けるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所できることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に書面や口頭により、本人や家族に意見や希望を確認している。当施設での対応出来る範囲を説明し、必要に応じて他病院や医師・看護スタッフとチームを組み連携しているが、基本的には隣接する医院に委任している	入所前に本人や家族等と重度化や終末期の在り方を話し合い、意見や希望が聞き取られている。重度化に伴い医師や看護師と連携して何度も意向を確認しながら、終末期に向け方針を共有し、チームでの支援がなされている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	身体的に急変が考えられる場合は、看護スタッフから急変時の際の対応手順の確認を受けている。急変時・事故発生時のマニュアルをもとに施設内研修を行ったり、AEDも設置して講習・訓練を実施している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の火災・地震・河川の氾濫等に対しての防災計画・防災マニュアルを作成しており、必要に応じて見直しをしている。年2回の消防避難訓練や消火器訓練を実施している。又、緊急時の連絡網を作成し、所属する全職員に周知している。近所の職員を、非常収集員として通達している	多様な災害に備え、防災計画や防災マニュアルを作成し、見直しも行っている。災害時の避難場所の確保非常時の備品の確保なども準備している。近所の職員を非常収集員としてきちんと通達がなされている	学校が統廃合している地域なので、事業所・医療機関は貴重な資源となっている。更に地域と共に大規模災害に備えた訓練や避難の有り方等行政や住民を巻込んだ対策の発展に期待します

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者に対する尊敬の念を持ち、個々に合わせた対応を行っている。医療的な処置を行う際は自室で行うようにし、羞恥心や自尊心に配慮している。なお、居室の入り口にはカーテンを設け、プライバシーを確保している	地域で長い間暮らしてきた高齢者に対し、尊敬の念を持ち個別の支援が行われている。ハード面で居室の入り口にカーテンをかけるなどプライバシーにも配慮されている。治療なども居室を利用されている	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に応じて声かけの方法を考え、思いを表しやすいよう心掛けている。更衣時の洋服選びも、可能な方には、なるべく自己決定してもらえるようにしている		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調面等、個々の状態に合わせ、食事の時間を調整したり、レクリエーションの参加も本人の意思を尊重し、それぞれのペースに合わせた支援を行っている		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ禍の為、外出は出来ないが、毎朝化粧する方、肌の手入れをされる方もおられ希望に応じて化粧品の購入もを行い、施設においても、おしゃれができるよう支援している		
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は白米・おかゆ・刻み・ミキサー・とろみ等個々の状態に合わせて対応している。ゆっくりと楽しんで食事が摂れるよう配慮し、食後のお膳拭きやテーブル拭き等も生活レクとして手伝って頂いている	主食は調理し、副菜は加熱し、利用者に合わせ食べやすくして提供されている。必要な方には、食事介助もしながら、ゆったりと食事されておられる。準備・片付け等生活リハビリの一環として一緒に行われている	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立及び調理は外部業者に委託している。個々の状態に合わせて、栄養補助食品等を医師の指示で提供している。食事量や水分摂取量を毎日確認・記録しており、医療と連携している。又、いつでも水分が摂れるように対応している		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、うがいや歯磨きをしていただくように声かけ・誘導・介助を行っている。洗面台には個々の歯磨きセットを置き口腔ケアが行いやすいようにしている。義歯の方には夜間は薬剤を使って洗浄を行うようにしている		

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表(チェック表)で毎日記録している。個々の排泄パターンを把握し、声かけ等で促すようにしている	日中は基本トイレでの排泄支援、夜間は個別の体力に応じた支援がなされている。移動の困難な方でも、どこまでの支援が必要か見極め、出来るだけ自力での排泄が促されている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すようリビングではいつでも水分が摂れるようにし、便秘体操なども取り入れている。排泄チェック表を確認し、排便が見られない場合は、投薬、腹部マッサージや浣腸(医療スタッフ)を行うこともある		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴表を活用し、週2~3回入っていただいている。本人の希望や体調面を考慮し、臨機応変に対応している。安全に入浴を楽しんでいただけるよう支援を行っている	現在、個浴の方よりリフト浴の方が多く、入浴は1日に3人ぐらいでゆっくりと安全に支援がなされている。本人の希望や体調を考慮する臨機応変な対応がされている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠時間は個々のペースで就寝していただいている。又、その日の体調も考慮し、声かけ・誘導・介助を行い、照明や音にも配慮している。日中の休息も自由にしていただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が服薬時間に合わせ1人ひとりに手渡しし、飲み込むまで目視確認している。又、新たな薬が処方された時には処方された理由も記録し、全職員が理解・対応出来るように周知している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所者それぞれが役割を持って生活できるよう、玄関の掃き掃除・洗面台磨き・おしごり干し・おしごりたたみ・洗濯した衣類たたみ・レクの指導・ゲームの進行等、個々に合ったお手伝いをしていただいている。又、レクリエーションや作品制作等は、各々の得意分野や能力を活かせるような内容に配慮している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、現在はドライブは徐々に計画・実施している。が、普段あまり外出されない方でも、出来るだけ全員が参加出来るようにベランダや玄関先でおやつや外気浴を行い、気分転換になるよう支援している	ベランダや玄関先での外気浴や散歩以外にドライブが再開できている。重度の方も全員が出かけられるように、医師同伴で外出支援を行っていることもある	

50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を手持たり使えるように支援している	当施設では、ご家族の理解をいただき、入所者全員の現金は施設で管理している。定期的に移動スーパーが来るので、希望する方はお預かりしている現金で買い物を支援している		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りは、本人の希望により便箋や封筒・葉書等を用意したり、ご家族が準備して物をお渡しし、自由に書いていただいている。電話も希望により、施設の外線で通話していただいている		
52 (19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間については清潔や臭いに配慮し、玄関や中庭・フロアに季節感のある花や作品を飾っている。テーブルやソファも安全な物を使用し、必要なら移動できるようにしている。ソファでテレビを観たり、和室で自由に横になる事も出来る。冬はこたつも用意している	玄関からバリアフリーで段差がない。共有空間は天井が高く中庭からの採光が周囲を広々と明るくしている。臭気や換気にも配慮されている。淡い色調の室内でカーテンや家具が落ち付いた雰囲気を作っている。利用者もゆったりとくつろげる環境である	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室以外でも、フロアより少し離れた場所にベンチを設置し、1人になれたり2~3人で話ができるようにしており、その場所がお好きな方は日ごろよく利用されている		
54 (20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはなじみの家具や好みのものを持ってきていただいている。各部屋とも十分に採光もあり、ドアが開いていてもカーテンでプライバシーが守れるよう配慮している	入り口ドアには名前と手作りのクリスマス等季節の飾り付けがあり、入り口にはカーテンが設置されている。室内には、ベッドと備え付けのクローゼットがあり、出窓からはガーデニングの庭が見えている。テーブルやイスもありホテルのようである	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札やトイレのプレートは、見やすいように大きく低い位置に表示している。居室はバリアフリーで、各々の状態に応じて手押し車や車いす、ポータブルトイレ等使用していただいている		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

自己 外 部	項 目	自己評価
		実践状況
I 理念に基づく運営		
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を各所に掲げ、常に目に触れる様にして共有している。又、ミーティングで理念に対する具体的なテーマを決めて、実践し、次回の見直しに反映するようにしている
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	去年よりの新型コロナウイルスの感染への対策として、不要な接触を避けている為、地域の方々との交流については、積極的には行っていない。時期を見定めての判断となる
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為、積極的には行っていない
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居の状況、入居者の日々の様子や行事等出来るだけ伝えるようにしている。又、事故報告や取組状況も報告し、そこで頂いた貴重な意見をサービス向上に向けて生かせるように努力している
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類の提出や事業所の運営に関する質問、運営推進会議の議題の相談等させていただいている。又、事業所の報告を行い市町村の取り組みに対し協力体制を整えている
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を定期的に実施し、必要な書類や事例等で理解の周知に努めている。玄関の施錠についてはコロナ禍の為、積極的には行っていない
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待についての定義や職員としての心得を勉強会を通じて理解を深め虐待防止に努めている。新職員が入った際に行ったり、職員同士で言動等についても注意を払っている

8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて勉強会を実施し、理解を深める取り組みを行っている
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の書面を見ながら随時説明しているが、一度自宅に持ち帰りじっくり目を通してくださいようにしている。不明な点があれば、いつでも尋ねてもらえるよう声かけを行っている
10 (6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情受付箱(意見箱)を設置している。又、面会時にも出来るだけご意見を伺えるよう声かけを行っている。頂いたご意見や苦情は全体に周知し話し合いを持つようにしている。結果については御家族に伝えるようにしている
11 (7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングは代表者や管理者も出席し、運営に関する意見や提案を直接話す事が出来る様にして、意見交換を行っている。その結果によって体制や業務の変更を行っている
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者や管理者は、職員と個別に話し合える機会を設けており、勤務への希望・給与・業務内容等について話し合う事が出来る
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者や職員からの話に耳を傾け、個人の力量の把握に努めている。各自の経験や習熟度等、段階に応じた研修の参加を促している
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在コロナ禍の為、定期的には行っていないが、電話等での情報交換は行っている

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に必要に応じて職員が自宅訪問したり、ご本人に施設見学に来ていただいたりしている。ご本人の要望や不安に耳を傾けて、安心して入所出来るように取り組んでいる
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話をご本人が同席しない場でゆっくりと聞く時間を設けるようにしてある。ご家族の思いを受け止め、極力要望に応えられるよう努めている
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族との面談やケアマネージャーからの情報収集を行い、支援の見極めに努めている
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入所者を人生の先輩として尊敬し、日々の暮らしの中で風習や料理の作り方等を教わったりして、隔たりなく接している
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の為、今までとは違う支援になっている。外出・外泊等は御遠慮していただいているが、必要に応じ、連絡を取り合い、信頼できる関係は築けている
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在コロナ禍の為、積極的には行っていない。今後の状況に応じての対応になる
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話好きな方、聞き上手な方など入所者同士の関係を把握した上で、食堂の席を決めたり、一人ぼっちにならないように配慮している。入所者同士が声を掛け合ってレクリエーションや洗濯物たたみに参加されている
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じて相談に乗り、家族・本人の支援に努めている。退所後も会えば言葉を交わし、相談しやすい環境作りに努めている

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの入所者とのかかわる時間を、出来 るだけ多く持つようにしている。自身の思 いを伝えにくい方に対しては、表情や行動・ 何気なく発する言葉から思いをくみ取るよ うに日々の観察や声かけを行っている
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の本人との面談、入所時ご家族に話を伺う等により、日常の生活状況や生活歴を把握している。入所後も、随時新しい情報を追加し、より正確な情報の把握に努めている
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや日々の記録、本人の発した言葉等も伝え、心身の状況を把握するとともに、チームカンファレンスや生活記録を通して、総合的に把握するようにしている
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当する職員を決めて、ケアプラン実施状況の評価やモニタリングを行っている。又、面会時にご家族に意見を聞いたり、電話で意向を伺う等し、ミーティングで職員が意見を出し合い、介護計画に反映するようにしている
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	他の施設のものを参考にしたり、職員の意見をもとに記入しやすく見やすい記録に改善することで、情報の共有がしやすくなり、ケアプランの実施状況と結果・モニタリング・介護計画の見直しへの流れが解かりやすいようにしている
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて受診等の送迎・付き添い・買い物等の外出支援を行っている。日々の大まかな予定や計画にどらわれる事なく、状況に応じて柔軟に対応している
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在コロナ禍の為、出来ていないが、それまでは運営推進会議等を利用して、地域行事への参加の希望等を伝え、状況が整えば実施している。又、普段から老人会・婦人会・民生委員・消防等との良好な関係作りに努めている

30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望があれば尊重し、納得が得られたかかりつけ医と連携している。又、受診時には薬手帳やその他必要な記録を持参して、適切な医療が受けられるように努めている
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に看護師と情報交換を行い、小さな変化も伝えるようにしている。隣接の医院、通所介護施設の看護職員とも常に連携の体制をとっている
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の担当スタッフ等と連携をとり、病状説明や退院へ向けてのカンファレンスに参加するようになっている。コロナ禍の為、入院中の面会は出来ないが、状態の把握に努めている。又、家族とも連絡を取り退院後の生活等の相談をし、安心して治療を受けるようにしている
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に書面や口頭により、本人や家族に意見や希望要望を確認している。当施設での対応出来る範囲を説明し、必要に応じて他病院や医師・看護スタッフとチームを組み連携しているが、基本的には隣接する医院に委任している
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けています	身体的に急変が考えられる場合は、看護スタッフから急変時の際の対応手順の確認を受けている。急変時・事故発生時のマニュアルをもとに施設内研修を行ったり、AEDも設置して講習・訓練を実施している
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の火災・地震・河川の氾濫等に対しての防災計画・防災マニュアルを作成しており、必要に応じて見直しをしている。年2回の消防避難訓練や消火器訓練を実施している。又、緊急時の連絡網を作成し、所属する全職員に周知している。近所の職員を、非常収集員として通達している

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者に対する尊敬の念を持ち、個々に合わせた対応を行っている。医療的な処置を行う際は自室で行うようにし、羞恥心や自尊心に配慮している。なお、居室の入り口にはカーテンを設け、プライバシーを確保している
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に応じて声かけの方法を考え、思いを表出しやすいよう心掛けている。更衣時の洋服選びも、可能な方には、なるべく自己決定してもらえるようにしている
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調面等、個々の状態に合わせ、食事の時間を調整したり、レクリエーションの参加も本人の意思を尊重し、それぞれのペースに合わせた支援を行っている
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ禍の為、外出は出来ないが、毎朝化粧する方、肌の手入れをされる方もおられ希望に応じて化粧品の購入も行い、施設においても、おしゃれができるよう支援している
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は白米・おかゆ・刻み・ミキサー・とろみ等個々の状態に合わせて対応している。ゆっくりと楽しんで食事が摂れるよう配慮し、食後のお膳拭きやテーブル拭き等も生活レクとして手伝って頂いている
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立及び調理は外部業者に委託している。個々の状態に合わせて、栄養補助食品等を医師の指示で提供している。食事量や水分摂取量を毎日確認・記録しており、医療と連携している。又、いつでも水分が摂れるように対応している
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、うがいや歯磨きをしていただくように声かけ・誘導・介助を行っている。洗面台には個々の歯磨きセットを置き口腔ケアが行いやすいようにしている。義歯の方には夜間は薬剤を使って洗浄を行うようにしている

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表(チェック表)で毎日記録している。個々の排泄パターンを把握し、声かけ等で促すようにしている
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すようリビングではいつでも水分が摂れるようにし、便秘体操なども取り入れている。排泄チェック表を確認し、排便が見られない場合は、投薬、腹部マッサージや浣腸(医療スタッフ)を行うこともある
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴表を活用し、週2~3回入っていただいている。本人の希望や体調面を考慮し、臨機応変に対応している。安全に入浴を楽しんでいただけるよう支援を行っている
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠時間は個々のペースで就寝していただいている。又、その日の体調も考慮し、声かけ・誘導・介助を行い、照明や音にも配慮している。日中の休息も自由にしていただいている
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が服薬時間に合わせ1人ひとりに手渡しし、飲み込むまで目視確認している。又、新たな薬が処方された時には処方された理由も記録し、全職員が理解・対応出来るように周知している
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所者それぞれが役割を持って生活できるよう、玄関の掃き掃除・洗面台磨き・おしぶり干し・おしぶりたたみ・洗濯した衣類たたみ・レクの先導・ゲームの進行等、個々に合ったお手伝いをしていただいている。又、レクリエーションや作品制作等は、各々の得意分野や能力を活かせるような内容に配慮している
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、現在はドライブは徐々に計画・実施している。が、普段あまり外出されない方でも、出来るだけ全員が参加出来るようにベランダや玄関先でおやつや外気浴を行い、気分転換になるよう支援している

50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当施設では、ご家族の理解をいただき、入所者全員の現金は施設で管理している。定期的に移動スーパーが来るので、希望する方はお預かりしている現金で買い物を支援している
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りは、本人の希望により便箋や封筒・葉書等を用意したり、ご家族が準備して物をお渡しし、自由に書いていただいている。電話も希望により、施設の外線で通話していただいている
52 (19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間については清潔や臭いに配慮し、玄関や中庭・フロアに季節感のある花や作品を飾っている。テーブルやソファも安全な物を使用し、必要なら移動できるようにしている。ソファでテレビを観たり、和室で自由に横になる事も出来る。冬はこたつも用意している
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いで過ごせるような居場所の工夫をしている	居室以外でも、フロアより少し離れた場所にベンチを設置し、1人になれたり2~3人で話ができるようにしており、その場所がお好きな方は日ごろよく利用されている
54 (20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはなじみの家具や好みのものを持ってきていただいている。各部屋とも十分に採光もあり、ドアが開いていてもカーテンでプライバシーが守れるよう配慮している
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札やトイレのプレートは、見やすいように大きく低い位置に表示している。居室はパリアフリーで、各々の状態に応じて手押し車や車いす、ポータブルトイレ等使用していただいている